

スーパーグローバル大学創成支援事業 中間評価結果

大 学 名	立教大学
整理番号	B19
構 想 名	グローバルリベラルアーツ×リーダーシップ教育×自己変革力 ー世界で際立つ大学への改革ー

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) B	当初目的を達成するには、助言等を考慮し、より一層の改善と努力が必要と判断される。
<p>(コメント)</p> <p>本構想は、「カリキュラム」、「学生の意識」、「ガバナンス」の3つの改革により、「世界で際立つ大学」への進化を目指すものである。各改革は「グローバルリベラルアーツ」「リーダーシップ教育」「自己変革力」のキーワードで大学と学生双方の目的意識が明確化されており、個性ある構想として、その成果が期待される場所である。</p> <p>構想全体の初動期の取組としては、構想の骨格となる部分において良好な進捗と成果が得られたものと評価する。具体的には、立教学士課程プログラム「RIKKYO Learning Style」、「Global Liberal Arts Program (GLAP)」、「グローバル教養副専攻」等の中核を担う体制・プログラムが予定どおり着実に整備されている。また、各数値目標についても、大学間協定に基づく日本人派遣学生数、TOEFL等の外部試験の学部入試の活用、大学独自の成果指標としてのTOEIC900点相当以上の日本人学生数(TOEIC CLUB 900)など、多くの項目で達成されている。</p> <p>一方、シラバスを英語化している授業科目数が数値目標を大きく下回っている点など、今後の対応や検討を要する項目も見られることから、今後の本格的な構想の展開にあたっては、大学として責任ある取組を推進していくことが求められる。特に、グローバル教養副専攻登録対象者4,687名に対して、本評価時点での登録者がわずか123名に留まっている状況は、全学的取組を掲げている本構想の趣旨を実現するには不十分な水準であり、危機意識を持った上で更なる改善への努力が必要である。</p> <p>本事業採択大学においては、大学全体としての国際化を社会的にインパクトのある水準で実現することが強く望まれる。大規模大学としての困難はあっても、今後、評価において、この点に係る改革の取組と成果は極めて重要な視点となる。全学改革を先導するGLAPの「縦軸の改革」を「横軸の改革」へと結びつける構想自体は評価出来るものの、横軸の改革での実績の改善に加え、全学的な改革の実現を担保する仕組みそのものに更なる工夫が必要である。今後の本格的な構想の展開期に臨んでは、日本人学生の海外留学経験者数の増加に留まらず、「グローバルリベラルアーツ」が各学部の教育課程に取り込まれ、その効果が全学的に波及する工程について、より現実的なマイルストーンの設定と可視化を期待したい。</p> <p>以上の全学展開への課題とともに、本構想が掲げる「カリキュラム」、「学生の意識」、「ガバナンス」の各テーマにおける目標についても、今後着実な実現が強く望まれる。改めて、本構想の全学的推進体制の一層の強化を求めたい。</p>	